

婦女の身賣り防止

運動を今後とも繼續

働く事を前提として

小額資金を貸付ける

既報濱三郡職業紹介聯絡事務打合せ會は明八日午前十時より平町會議室に開かれ、當日の打合せに希望事項左の如くである。

者の身上調査に關する件
就職資金貸與に關する件
旅客運賃割引證取扱に關する件
尙右希望事項中の就職資金貸與は身賣防止の爲め就職を前提として小額の貸付をするものであつて昨年来の凶作に依る農家の極度の貧困化から露出する婦女の身賣りを防止して現在まで見ざるべきものあり平町二十七名、湯本町三十三名を救護しその所要金額は平町千四百圓、湯本町千三百六十五圓に達してゐるが今後此の運動を繼續すべくこれの詳細な協議を遂げるもので注目される。

(打合事項) 女工の職業紹介に關する件、女中の紹介に關する件、青年の同紹介に關する件、職業事業の趣旨普及に關する件(希望事項) 聯絡事務取扱に關する件、求職者開拓に關する件、勞務者の移動に關する件、少年の職業紹介に關する件、青年の職業指導に關する件、除隊兵の就職斡旋に關する件、炭礦労働者の同紹介に關する件、求人求職

教員給料不拂の

町村に警告

けふ學務部長が

平町に町村長を集めて

本郡各町村來年度教育費國庫負擔金調査會は今七日午前九時より平第三小學校講堂で開催、縣より諸橋學務部長以下縣屬一行臨席各町村長及び小學校長等各三百名參會種々協議したが尙

上諸橋學務部長より教員給料支拂不良町村に對し警告があつた

圖書入賞兒童

一小學校は去月十日白河小學校で開催の福島縣圖書教

(高一)鈴木一郎(高二)永山誠也 吉田和佐美 志賀啓佐

精神振興

詔書記念日

警中、警女、平商の平町三等學校は今七日の國民精神振興に關する詔書御下賜記念日に際し夫々學校長の詔書捧讀、訓話等があつた、尙各小學校でも今七日より一週間克己週間として訓話等ある筈

蒔蒔の販賣統制

第一回の入札執行さる

年額二十萬五千五百二十圓七萬六千六百五十圓内外を産して郡内農家(特に山間部)の重要な經濟面を占むる蒔蒔栽培は近年特に著しい發展過程を辿りつゝあるがその販賣に於いて幾多の缺陷を有し莫大な不利を見てゐるので郡農會柴田技手がその缺點を補填して從來の個人販賣をさけ販賣の統制を圖る爲め共同販賣を目的として斡旋奔走して來たが愈上遠野村深山臺部落の販賣統制に依る仲買人の第一回入札を來る十日行ふ事になりその成績を注意されてゐる、これは同部落丈けでも約百戸あり一戸二畝として(一畝四五圓)二百畝約九千圓の産額を示し飯米不足の土地の副業としては好個の有利な地位を占めてゐると

眼の廻る忙しさ

豪雨被害の跡仕末に

復舊の陳情攻め

既報平土木監督所は目下豪雨被害地の復舊工事設計に多忙を極めて居るが最も被害の甚だしかつた田人村宇南大平から勿來驛に通ずる縣道は土砂崩壞箇所が廿二ヶ所に及び末だに交通杜絶の状態であり農繁期に交通上困つて居ると本日村長と部落代表等が小林所長に陳情したが尙湯本、石川線縣道にも六ヶ所崩壞した儘になつて居る處があり監督所

地元負擔

到底至難

玉川の陳情

玉川村大字住吉の大島橋は過般の豪雨で流失し今回工費二千五百圓で復舊工事に着手する事になつたが同村は目下稲作も四割以上の減收にて居る有様なので地

するが後任は未定である

永島教諭昇進

警女 教諭永島磯惣太氏は此の程高年官五等待遇に陞叙された

演習召集

平町十三氏

平署管内福島縣隊區司令部演習召集令狀は本日左記平町十三諸氏に傳達された
鍛冶町蓬田茂 鎌田町和知好清 研町安藤廣吉 十五丁目岩崎達雄 南町古川龜太郎 材木町小管榮治 六間門西湯元三 堤之内山本勝次郎 白銀町清水幸藏 二丁目馬目哲治 堤之内深谷亥吉 下川原木村忠雄 北目町鈴木寛

体育記録

測定競技

平第一小學校は來る十一日同校々庭で學級別に體育の公記録測定競技會を開く

シネマ週報

○平館 オールサウンド
大河内傳次郎、鳥羽陽之助コンビ主演「富士の白雪」オールトーキー開演
二、江川宇禮雄他オールスター「海國大日本」海江田讓二、月宮乙女主演「旅姿念佛囉子」料金廿錢
○世界館 松竹オールサウンド
演「接吻十字路」右太衛門主演「十萬石を裁く退屈男」新興歌川八重子、由利健二主演「月光の下に」松竹ニューズ 謝恩料金十錢

平町人事

△八幡小路 當時栃木縣足尾町 鍋田優氏五女博子
△新川町三三 鈴木六郎氏二女法子
△田町四五 當時盛岡市仁王 小川清藏氏長女攝子
△白銀町三五杉本實氏(三子) 赤井村字鹽田大平ハル子(二八)さん
△搔樋小路佐藤キミイ(一ツ)さん
△人々を求めの方
△女中 廿才迄 尋卒 給料五圓 外仕着
△農夫 六十才迄 日給四一五十錢
△豆腐賣子 四十才迄 給料分合
△土工夫 四十才迄 日給九十錢
△製紙工場雜役 卅才迄 日給卅錢
△採炭夫 四十才迄 日給一圓位
△人組女工 廿才迄 日給四十錢 尋卒
△職を求むる方
△旅館番頭 卅四才 高卒

木村科醫院

平町六丁目橋際 電話三〇九番

木炭は

値上りか?

山元の災害で 生産品が不足

愈よ木炭の需要期に入り郡下の木炭共同受検場にはいづれも木炭の山を築いて居るが平木炭検査所で調査した郡下の去月中に於ける生産高は十六萬八千八百七十五俵で昨年同期の廿萬八千七百十二俵に比し三萬九千七百三十七俵約二割高を減少して居る、是れは暴風雨

竹刀は始めての

先生方が剣豪振り

生徒等面白がる

深みゆく秋と共に多忙なスポーツ行事も終焉をつげんとする折柄平商業学校では来る十二日の剣道大会に職員の内紅白試合を試みるがその組合左の如く

- 紅軍 白軍
- 大將 佐藤 猪狩
 - 副將 宮澤 中村
 - 三將 武川 新田
 - 中堅 泉田 服部
 - 五將 若松 下山田
 - 六將 玉手 鳴原
 - 先鋒 菅原 清水
- 紅軍大將佐藤中尉はその昔班内で鳴らした腕、白軍猪狩氏また署長時代に勇名を馳せた古豪であり、續く副

は来る九、十兩日午前九時より午後五時でマルトモホールで開催されるが一般參觀者を歓迎すると

久保町青年 役員を決定

役員を決定

平町久保町青年團にては六日午後六時から同町永山一氏方に團員卅名總會總會を開き役員を左記の如く決定永山勇吉氏の激勵演説の後團員各自の意見發表、團の方針大綱協議等あり盛會裡に散會した

團長 渡邊喜知 副團長 大竹榮一 會計 永山一 常任幹事 荒川一郎 他幹事 三名 顧問 永山勇吉

作文集 編纂

小冊子に纏む

國語教育研究會石城支部は從來發行された児童文集の

家出の二少年が

横濱見物中捕る

用舎で朽ちたくなると 意氣投合して上京

大浦村大森農義則次男宮本正義(一)同村末松三男原茂樹(二)の兩名は幼な友達のよしみから其の儘田舎で朽ちたくなると意氣投合し苦學を志し四日朝親の金を持ち東京の親戚を頼つて家出上京したが序でに横濱を見て來やうと横濱市中區不老町一ノ井五富山旅館野村きよ方へ何れも偽名で投宿

明日の天気

今夜も明日も北西の風天気良くなる

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話 伊適越の仇討 村治圓次郎
- 後六、二五 御陵めぐり
- 「仁徳天皇御陵を中心とする」攝津河内和泉地方
- 江崎政忠
- 後七、三〇 講演 正倉院の話 正木直彦
- 後八、〇〇 浪花節「稻荷丸」の相槌 梅中軒篤重
- 後八、四〇 新内界身賣り

明日の部

- 前七、〇〇 現代語講座
- (九)「關東言葉について」保科孝一
- 前七、三〇 朝の修養「華嚴經」(五)河野法雲
- 前九、〇〇 家庭メモ

潜伏女給

抱主から搜索

白河町大工町四二カフエーギンザ事樋口イネ方女給山形縣南村山郡内田村生れ平五郎長女志田ミサオ(三)は去月廿二日夜柴田サイカスの前川某外二名の者に巧みに誘拐されたが發覺を怖れた、尙兩人共各卅圓程所持してゐた

伊勢崎署員に取押さへられ、尙兩人共各卅圓程所持してゐた

於ける勞力の問題」青森地方職業紹介事務局長木田徹郎

後六、〇〇 子供の時間

お話「動物新聞」半澤一郎

山間農産品評

田人

上遠野、入遠野三村聯合農産物品評會は来る廿日より廿四日まで五日間田人村小学校で開催されるが出品七百点に出るべく尙木炭の出陳もある、當日は郡農會柴田技手の農事講演會が行はれる外三村産出蒟蒻の販賣統制が議される筈

植田聯合体育

植田町外一町八ヶ村の青年團聯合體育競技大會は来る十日午前九時より植田小学校々庭に開催される

母校へ金百圓

過般警越東線列車顛覆事件で慘死を遂げた内郷村杉山炭礦主杉山今朝吉氏の長男朝光氏は今回母校山形縣新庄小学校に貧困児童給食費として現金百圓を寄附した

平裁判たより

△石城郡江名町大字中の作吉田久四郎方發動機船油差片野金松(三)は去る一月廿二日日本籍地新潟縣北蒲原郡金塚村を出奔し七月四日同村点呼場にて不參兵役法違反で略式罰金廿圓

△石城郡小名濱町宇古港磐城海岸軌道會社自動車運轉手薄羽健次(三)は去る六月二十六日午前七時四十分頃泉村瀧尻地内丁字路で不注意より同村草野文勇(三)に追突し頭部其他に全治一ヶ月の重傷を負はせ業務上過失傷害罪で略式罰金四十圓

△石城郡内郷村大字宮宇宮澤炭礦軌道夫廣川虎平(三)假名は八月五日午前一時頃前日の盆踊りの喧嘩の仕返しをすべく石を手拭に包んで携へ同家へ至り頭部を殴打し全治二週間の頭部打撲傷を負はし傷害罪で略式罰金四十圓

納税思想の普及 既報平普及映畫會 縣稅務出張所は納税思想普及の第一回映畫會を去る廿日より各町村に開き好成绩を挙げたが近く左記日割で第二回

吾妻路宮壽他

後九、〇〇 ビアノと管絃

楽 トリアフエデルニ

コス新交響樂團

後九、三〇 時報 ニュー

氣象通報 番組豫告



明治太平記

(上段)

(作) 寺島雄史
(監) 寺島雄史

第二百六十九回

俄か頭目 (三)

天竺も、甲州屋も、木隠れも、淋しい氣持で大志賀の階段を登つて行く後姿を見送つた。彼の影がうすいやうな氣がして仕方がなかつた。

「親分、大志賀の旦那は死ぬあ、見殺しにはできねえなア」
甲州屋はかなしげに云つた。

「いや、めつたに死ぬものか、何かまた、助太刀の道樂が出来たのだらう。當分五千兩の大金に眼もくれず助太刀稼業をすてぬぞ。よつほどありア、變り者だぜ」

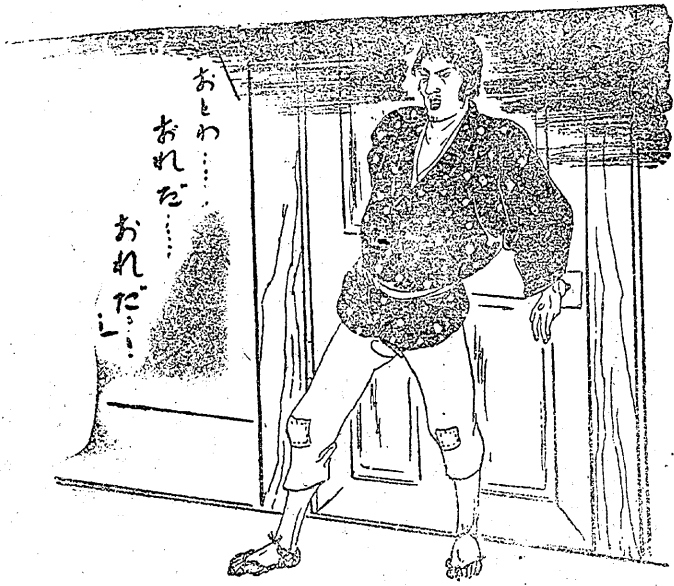
「しかし、惜しい人物だ。あれほどの腕、あれほどの見識をもつてを、世をすねるなど、勿體ねえはなしさね」

「腕や、見識があるから世をすねるのさ、あの男が變り者ぢやなくて、ほんとうは世間が悪いからよ」

「おや足音がする」
甲州屋は肩をすくめた。
「いまのうちだ、のがう」

三人は、大志賀にこゝろを残して、そつと通用門を出かけた。

階段を足音をぬすんでおぼり切つたとき、階下に靴音がしてゐた。
「はてな、天竺たち、無



おとわ...
おれた...
おれた...

事に消えてくれたかな——
おのれの危険をかへりみず、大志賀は三人の身を案じた。
しかし、靴音はそれなり消えてしまつた。もちろん天竺たちは五千兩入りの靴を抱へて飛び散つたころだ——
これでよし——

もすてよう、まつたくの白紙、丸腰となつて、おとわとおとわを可愛がつてやらう——
おとわ。
こゝろに吹きながら、襲ひくる情感をおさへて扉のハンドルに手をかけた。
ど、その、たつたいま、そつと閉めて來たばか

一人うなづき、うす暗い二階の廊下を忍び歩いた。モレルの室の扉が、木隠れの不始末だらう細目に開いてゐる。それをそつと閉めて、おとわのなつかしい室、その前にしよんぼりと立つた。
「こ、こへ忍び寄りたいばつかりに、天竺たちに仁義を缺いてしまつたのだ——
苦笑に似たものがうかんで消えた。そして、そのあとへ、不思議と甘美な情味が胸にあつた。
「おれはもう、何もか

吉田眼科病院
平野屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

9.5 m.m
PONY
CINE-CAMERA
¥ 18.00
PROJECTOR
¥ 17.00
NSHMURAY-YAKUHO
TAIRA-2. TEL 3

難波
内科一般
醫學博士 難波陸
看護婦募集
平町大町新川端
電話五〇二二

りのモレルの室の扉が、こちらに呼應するやうに音もなく開いた。
「おし——
大志賀は、けはしい眼で振かへり、同時にいつぞや芳丸から預つて置いた合鍵で、パークスの室の扉を開けてしまつた。
モレルの室から、半身を乗出したのは寢間着姿の巨漢、エドモンド。モレルだつた。
「どろぼう——」
彼は鋭く叫ぶと、もにピストルのつゝ先を向けた。

産名城馨
味美 鱈 じほから
当店特製
鱈節賣出し
音……
その前に、こちらの扉を閉めてしまつて、大志賀は太く息づいた。
モレルの、何やらわめくのがきこえた。つゞいて階段を駆け上つてくるホテル館の使用人たちの靴音……
魚問屋
店商榮盛賀志
(三二電)目丁平

是非!
御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます
三井質店
平四・電六〇六番

歯科口腔外科
レントゲン科
院長 東京齒科 醫學士 原 精一
平町土橋通り
電話三一三番
原齒科醫院